

2024年11月3日（聖霊降臨後第24主日、特定26、B年）

牧師メッセージ

「愛しなさい」

（マルコによる福音書 12:28-34）

司祭ヨセフ太田信三

「愛しなさい。」これがわたしたちの最も大切な掟です。どのような立派なことを成し遂げようとも、どんなに日々善行を重ねようとも、愛がなければ意味がありません。神と隣人を愛する。これ以上に大切な戒めはありません。

しかし残念ながら、隣人を自分の中から出てくる愛だけで愛し抜くことはできません。なぜなら、わたしたちがどんなに振り絞っても、愛はすぐに枯れてしまうからです。愛の源泉は神です。神はわたしたちが愛するよりも先にわたしたちを愛し、わたしたちが渴くことがないように、わたしたちを愛し続けてくださいます。人が愛に満たされ、神と人との愛の交わりのうちに生きられるためにです。神の愛をいただくなら、わたしたちは自分自身の愛に限界があろうとも、人を愛することができるのです。

愛の源泉である神は、わたしたちにはわからない方法で、時に人の目には奇跡と感じられるような方法で愛を届けます。多くの場合、神は人を通してご自分の愛を届けます。そして神に用いられたその人から、愛の連鎖がはじまります。世界に愛が満ちる一步は、「わたし」が「あなた」を愛することなのです。ですから、神はまずわたしたち一人一人を愛し、そして次にわたしたちが隣人を愛することを求めています。あなたが愛するなら、愛の交わりがそこから生まれ、やがて神の愛が世界を覆います。そのために、神はわたしたちを無条件で愛するのです。

自分を愛することほど難しい、と思われる方もいるでしょう。私自身、その思いに深く共感するところがありますが、しかし、そういう方こそ是非、愛することを実践してはいかがでしょうか。なぜなら、たとえ限界があっても、あなたが愛するなら、そこに確かに愛の交わりが生まれるからです。その愛の交わりの中で、自分自身にも、神の愛が、隣人の愛が届けられていることを知るのではないのでしょうか。必ずや神は愛の交わりへとあなたを迎えてくださいます。神の愛は枯れることなく、誰一人漏れることなく注がれています。そして、神の愛は虚しく消え去ることはありません。

神と人との愛の交わりの中でこそ、あらゆる掟に血が通います。すべての掟に愛の血が通う時、掟は単なる文字ではなく、今なおこの世を愛で満たそうとする神の思いとなります。主がわたしたちを用い、わたしたちがこの世の愛の起点となることができますように。神からの愛をたっぷりいただき、互いを思いやり、励まし合って歩んでまいりましょう。